

イベントレポート 『2009 GT 耐久東海シリーズ 第2戦』

開催日 2009年5月24日(日) 13:00 決勝スタート

天候 曇り時々晴

最高気温 24.3 (15時)

場所 スパ西浦モーターパーク

エントリー台数 19台



2009年5月24日(日)愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークにおいて、2009K耐久/GT耐久東海シリーズ第2戦が行われた。午前中は一時的に雨が降ったが、午後からは薄曇りのレース日和の天候となった。

2Cクラス(1001cc~1500ccのNA車と、1200cc以下のターボ車 クローズドクラス)普通車のクラスでは毎回最多エントリーとなるこのクラス。今回も8台のエントリーを集めての激戦区となった。

このクラスは昨年より3連勝中のNo.13「MMS 藤井ケン岸本RSカルタス」が4連勝するのか、それとも他チームが連勝にストップをかけるのが注目のポイントとなった。



予選

予選 1位となったのはNo.35「エスエイチアールシビック」で、タイムは1.4.694をマーク。これは総合でも2位となる見事なタイム。

2位には表彰台の常連であるNo.3「メタルクラフトRTスターレット」で1.5.167を記録。3位のNo.24「アクセントBスターレット」、4位のNo.56「COC PIT高橋N+EP91」、5位のNo.25「金沢大学自動車部シビック」の3台は、ともに6秒台の争い。

連勝中のNo.13「MMS 藤井ケン岸本RSカルタス」は6位に甘んじる結果となり、以下7位No.31「東海YEG自動車倶楽部シティ」、8位No.108「丸和レーシングEP82」と続く。



序盤

序盤 30分経過時点では、No.35「エスエイチアールシビック」とNo.3「メタルクラフトRTスターレット」が19LAPで上位を争う。3位にはNo.13「MMS 藤井ケン岸本RSカルタス」が上がって来ており着々と連覇を狙う。

このオーダーのままレースは進んだが、60分を経過した時点でピットインタイミングを引っ張ったNo.31「東海YEG自動車倶楽部シティ」が44LAPでトップに躍り出る。30分時点での上位3台はそのまま2位、3位、4位で60分を経過し、2LAP遅れで続く。

続く5位、6位、7位は同一の39LAPでNo.24「アクセントBスターレット」、No.25「金沢大学自動車部シビック」、No.108「丸和レーシングEP82」と続く。



中盤

2時間経過時点でのトップはNo.35「エスエイチアールシビック」で73LAPを周回。総合トップと同一周回のラップ数で頭ひとつリードした感が。

続く2位と3位は70LAPのNo.13「MMS 藤井ケン岸本RSカルタス」とNo.3「メタルクラフトRTスターレット」が追いかける。

4位のNo.108「丸和レーシングEP82」、5位のNo.25「金沢大学自動車部シビック」も同一周回の67LAPだが、優勝争いに絡むには厳しい差とな



る。

以下6位「東海YEG自動車倶楽部シビック」、7位No.56「COCPIT高橋N+EP91」と続く。

序盤まで5位争いをしていたNo.24「アクセントBスターレット」は、80分の時点でマシントラブルによるリタイヤとなってしまふ。

最終結果

激戦のKTCクラスを制したのは、予選1位からスタートのNo.35「エスエイチアールシビック」。総合トップから遅れること僅か0.6秒という堂々の記録で112周を走り切った。これにより初優勝を飾るとともに、3連勝中だったNo.13「MMS 藤井ケン岸本RSカルタス」の連勝を阻んだ。

2位にはわずかに1LAP遅れでNo.13「MMS 藤井ケン岸本RSカルタス」が入った。昨年からの連勝記録が3でストップしたものの、激戦クラスでの2位は立派な記録である。

3位にはさらに1LAP遅れでNo.3「メタルクラフトRTスターレット」が入り、前回に続いての3位となった。

4位には106LAPでNo.31「東海YEG自動車倶楽部シビック」が入り、そこからわずか9秒遅れの5位にはNo.108「丸和レーシングEP82」が入った。

以下6位No.25「金沢大学自動車部シビック」、7位No.56「COCPIT高橋N+EP91」と続いた。

今回素晴らしい記録で優勝したNo.35「エスエイチアールシビック」。次戦からは各チームのターゲットとなりそうである。

また今回は苦杯を舐めたNo.13「MMS 藤井ケン岸本RSカルタス」も巻き返しを図ってくることは必至である。2戦連続3位のNo.3「メタルクラフトRTスターレット」を含め熾烈な上位争いが次戦も繰り広げられそうである。



3Cクラス(1501cc~2000ccのNA車と、1201~1500ccのターボ車 クローズドクラス)

プログラム上は5台のエントリーとなっていたが、大会直前に40クラスにエントリーのチームがマシントラブルにより3Cクラスに車両変更を申し出たため、当日は6台での争いとなったこのクラス。

車両もレビン、シビック、ミラージュ、ロードスター、パルサーと、各メーカーの車種が揃い華やかな雰囲気。前回優勝のNo.110「DXLアライメント浜松NA6」は第2戦ではK耐久クラスに参戦との噂であったが、ふたを開けてみると結局3Cクラスにエントリーし他チームの期待を見事に裏切った!?. No.110が連覇するのか、それとも他チームが連勝にストップをかけるのか。

予選

予選1位となったのはNo.30「チームMMRCミラージュKRS」。かつてスラローム競技を賑わしたこのマシン、サーキットで見ると新鮮であるが、1'05.028という堂々タイムで予選トップ獲得はお見事。

2位には前回の優勝チームNo.110「DXLアライメント浜松NA6」が1'06.030で、しっかりと好位置をキープ。

3位には急遽クラス変更のNo.180「豊田映像パルサー小林板金」で1'07.765をマーク。知る人ぞ知る限定200台の200psパルサーである。以下4位に前回2位のNo.81「ソーワ&フレミングシビック」、5位には初



参加の No.96「チームKRS制動屋RUSHレビン」、6 位には前回 5 位の No.41「シーワンKMTYロードスター！」と続く。

序盤

レース序盤は予選 1 位の No.30「チームMMRCミラージュKRS」と 2 位の No.110「DXLアライメント浜松NA6」が激しいトップ争い。30分経過時点ではテールトゥーノーズのトップ争いを繰り広げる。3 位の No.81「ソーワ&フレミングシビック」もそこから 5 秒遅れに付け、稀に見る大混戦の様相。

また 4 位争いも熾烈で、No.41「シーワンKMTYロードスター！」、No.180「豊田映像パルサー小林板金」、No.96「チームKRS制動屋RUSHレビン」が 10 秒ずつの差で追いかける。

トップ3の争いは、このあと 60 分経過時点でも同一ラップでの大激戦。しかし 70 分を経過した時点で No.30「チームMMRCミラージュKRS」がコース上で突然のストップ…。優勝を狙える好位置に付けていたが、マシントラブルで無念のリタイヤとなってしまう。

中盤

120 分経過時点でのトップは No.81「ソーワ&フレミングシビック」で 72 周をラップ。そこから 1 周遅れで No.110「DXLアライメント浜松NA6」が食い下がる。そこから 4 周差での 3 位には No.180「豊田映像パルサー小林板金」が付けるが優勝を狙うにはやや厳しいか。4 位には 65 LAP の No.41「シーワンKMTYロードスター！」、5 位には 64 LAP で No.96「チームKRS制動屋RUSHレビン」と続く。

そんな 3 位争いが面白くなった矢先の 125 分、No.180「豊田映像パルサー小林板金」がスローダウンでピットイン。再度スタートするものの順位を大きく落とす。

一方 3 位争いを繰り広げていた No.41「シーワンKMTYロードスター！」であったが、終了わずか 20 分前にペナルティ提示を 3 周見落としてしまい、痛恨の失格となってしまう…。

最終結果

トップ争いは終盤までもつれたが、終了直前の赤旗で詰まったタイム差を上手く利用した No.110「DXLアライメント浜松NA6」が、見事に 2 連覇を GET した。周回数は 112 周で総合トップと同一周回であった。

1 位とはわずか 2 秒差で惜しくも 2 戦連続の 2 位となってしまった No.81「ソーワ&フレミングシビック」だが、次戦に向けて大きな手ごたえを感じた 1 戦になったことであろう。

3 位は No.96「チームKRS制動屋RUSHレビン」。初参加での 3 位入賞はお見事である。経験を積んで行けば上位を脅かす存在になりそうである。4 位は No.180「豊田映像パルサー小林板金」が入ったが終盤でのスローダウンが大きく響いた。

完走扱いにならなかった No.41「シーワンKMTYロードスター！」と No.30「チームMMRCミラージュKRS」であったが、無事完走出来ていれば上位に絡んでいたところだけに、ぜひとも次戦での奮起を期待したい。



30クラス(1501cc～2000ccのNA車と、1201～1500ccのターボ車 クローズドクラス)

今回は4台のエントリーとなったこのクラスだが、連戦での出場は No.16「clubYPスターレット」のみ。残りは昨年安定した速さを見せた No.19「YADOKARIシビック」と、No.93「SDC92レビン今度は5バルブ」の2台が長い充電を終えてエントリー。そこに初参加の No.83「カーライフ名古屋EK4」がどう絡んでくるのか。前回優勝の No.37「JKレーシングシビック」が今回は欠場とあり、各チームとも優勝狙いに気合が入る。



予選

予選1番時計を叩き出したのは、No.16「clubYPスターレット」。オーバーオールとなる1'03.378をマークして、何と2戦連続でのポールポジションを獲得。

2位には初参加の No.83「カーライフ名古屋EK4」が入ってくる。タイムは総合でも3位にあたる1'04.842。

以下3位には No.19「YADOKARIシビック」、4位には No.93「SDC92レビン今度は5バルブ」と続くが、これらのチームの潜在力からすると決勝では上位に上がってくることが予想される。



序盤

レース序盤、30分経過時点では No.83、No.19、No.16 が19週の同一周回で並び、No.93も1周遅れに付ける混戦模様。

60分を経過すると少しずつ差は開き、1位には43LAPの No.83「カーライフ名古屋EK4」、2位には1LAP遅れで No.16「clubYPスターレット」、さらに1周遅れで No.19「YADOKARIシビック」と続く。4位の No.93「SDC92レビン今度は5バルブ」も39周とまだまだトップを狙える位置に付ける。



中盤

2時間経過時点でトップに立ったのは No.19「YADOKARIシビック」で73周を記録。2位にはわずか1LAP差で No.16「clubYPスターレット」がピタリとマーク。つづく3位の No.83「カーライフ名古屋EK4」もさらに1周差と、3つ巴の様相。

No.93「SDC92レビン今度は5バルブ」は67周と食い下がるものの、トップを狙うにはやや苦しくなってくる。

上位3台のオーダーは、レース残り30分でも変わらず。このままチェッカーか…。



最終結果

レースも残り10分となった時点で、No.16「clubYPスターレット」が1コーナーでコースアウト…！これで一気に優勝争いから脱落することになった。最終的に混戦のこのクラスを制したのは、No.83「カーライフ名古屋EK4」で112周をLAP。初参加ながら、総合でも1位という素晴らしい記録で勝利を飾った。

2位にはわずか1周差で No.19「YADOKARIシビック」が。熱い走りを見せるも、優勝にはあと一步届かず。

3位には No.93「SDC92レビン今度は5バルブ」が106周で入った。

終了直前にコースアウトした No.16「clubYPスターレット」は結局レースに復帰できず、チェッカーを受けることができなかった。このため108周を回っていたものの、規定により4位というポジションになった。

上位の力の差が非常に均衡しているこのクラス。次回もどのチームが勝つのか、全く予測がつかない。

